

中学では部活や勉強に熱心だったが、高校で学校へ行かなくなった。

ラジオネーム：パンダさんより

ひげぐま先生、こんにちは。

いつもラジオを拝聴させて頂いております。

私の息子も最近学校に行けておらず、親としてとても心配な日々を送っております。

バイトは行くのですが、なかなか学校には行くことができません。

中学時代は部活や勉強に熱心だったのですが、高校2年生になった頃から学校へ行かなくなってしまいました。

どのお子様も通る道なのでしょうか。

他のお悩みを聞いているので、少し安心した気持ちになります。

これからも番組を応援しております。

ひげぐま

はい、パンダさん、毎回拙い私の話をお聴き頂き、ありがとうございます。また、今回はメッセージも頂き、ありがとうございました。

そこで、お子さんのことですが、僅かに数行のこれだけの情報では、詳しく、かつ、正確な分析はできませんが、おそらくこんなことだろうと思います。

まずはこうした相談はよくきますが、「どの子も通る道」ではないと思います。

「中学時代は、部活や勉強に熱心だった」ようですから、部活でも満足できる活躍をし、勉強面もたぶん定期試験のことだと思えるのですが、その試験で満足できる成績を修めていたことが想像されます。

ただそれを満足している主語は「本人」ではなく、「親や周りの人」であって、「親や周りの人を満足させる、親や周りの人の期待に応える」活躍や成績だったんじゃないかなと私は思います。

純粋に「自分の目標や目的」のためにする部活や勉強だったら、その子は挫折に会ってもそれを乗り越えられます。

しかし、自分のためではなく、「親や周りの人を満足させる、親や周りの人の期待に応える」部活や勉強だったら、その挫折は、「親や周りの人を満足させられない、親や周りの人の期待に応えられない」結果となり、そのためにもう学校に行けなくなってしまったように思います。

中学校では、部活や勉強で「親や周りの人を満足させる、親や周りの人の期待に応える」活躍ができて、高校入試で選抜され、同じ位の運動能力や学力を持つ子がより多く集まる高校では、中学校と同じように部活や勉強で、「親や周りの人を満足させる、親や周りの人の期待に応える」活躍することは難しくなるんです。ですから、選抜された高校では、そうした挫折感を味わう可能性は高くなります。

そうしたお子さんに対して、「これまでよく頑張ってきたね。大変だったね。疲れちゃったね。でも、やっぱりお前は、お父さん、お母さんの子だね。」と、まずはお子さんの気持ちに「共感」し、お子さんの承認欲求を満たしてあげてください。

「ここで少し立ち止まって、自分の将来を考えようね。自分がなりたいもの、自分がしたいことを見つけ直して、そのためにどうすればいいか、一緒に考え、行動しよう。」と話しかけて下さい。

そして、じっくりお子さんの話を聴いてあげてください。お子さんと「お子さんの目標や目的」を見つけ直して下さい。「親や周りの人を満足させる、親や周り人の期待に応える」目標、目的ではなく、「自分自身の体験や考えから導き出された目標や目的」を見つけさせることが大事なんです。

私も先ほど話したように、こうした挫折を味わった子ども達の相談が、月に2,3件受けます。パンダさんのお子様もそのような状態の可能性を、メッセージの文面から感じます。

パンダさん、このラジオをお聴きになっているようでしたら、お子様のことをもう少し詳しくお教えてください。適切な対応のアドバイスできると思います。

(2022年8月6日放送 FM島田「ひげぐま先生の相談室」から)